

東山

1月号

○やさしい子 ○考える子 ○たかましい子

やる気いっぱい 感動いっぱい 笑顔あふれる東小



平成31年 1月17日
発行者：校長 齋藤初代

新しい年を迎えて 3学期がスタートしました！



明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

平成31年（2019年）がスタートしました。今年は、十干が己（つちのと）で、十二支が亥（いのしし）ですので、干支（えと）は己亥（つちのと・い）となります。草木の成長に例えると、「己」は、「草木が十分に生い茂って整然としている状態」であり、「亥」は、「植物の生命の力が種子の中に閉じ込められている状態」という意味があるそうです。つまり今年の干支には、「しっかりエネルギーを蓄え、次の段階に向かう準備をする」という意味があります。「平成」最後の年であり、次の時代のスタートの年でもある今年、まさに「己亥（つちのと・い）」にふさわしい年と言えるのではないのでしょうか。

学校でも、まとめの3学期に、心・頭・体を十分に鍛え力を蓄えて、新たな学年に進む準備をしっかりとできるよう指導・支援していきたいと思えます。保護者の皆様、地域の皆様、引き続きご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

始業式の話より 「D語よりY語」「一日一善」

3学期のスタートにあたって、「やる気いっぱい 感動いっぱい 笑顔あふれる東小」にするために、3学期は、「だって」「でも」「どうせ」といった後ろ向きの言葉ではなく、「よーし」「やるぞ」「よろこんで」というYで始まる前向きな言葉を口癖にしようということを確認合いました。また、今年も体育館に掲げられている『一日一善』の額について紹介し、「今日も善いことをしよう」と意識していることで、周りのいろいろな『善い行い』に気付くようになります。そして、『善い行い』は必ず自分に跳ね返ってくるものです。毎日の小さな積み重ねが、大きな変化に繋がることでしょう。」という話をしました。すばらしい態度で始業式に臨んでいた子どもたちの、3学期の活躍を期待しています。

《5年 臨海自然教室 12/12～14》



5年生は「栃木県立とちぎ海浜自然の家」で、海浜ウォークラリー、塩づくり、貝の根付けづくりなどの体験活動をしたり、栽培漁業センターやアクアワールド

《6年 戦争体験談 12/20》



6年生は、岩舟町在住の小林さんと島田さんから、戦争中の生活について教えていただきました。当時の集合写真や、通知表、卒業証書などの実物を見せてもらい、いかに物資

が不足していたか、お互い助け合っていたか…など多くのことを知り、二度と戦争を起こさないと、平和の大切さについて深く考えることができました。このような学習の機会を今後もしっかりと位置付けていきたいと思えます。

《見守り隊の皆様へ感謝する会 12/21》

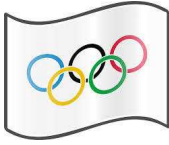
児童の登下校の安全を見守ってくださっている自治会の見守り隊の皆様、大平交番中村所長様、スクールサポーターの石井様にご来校いただきました。はじめに、「子どもの安全を守る意見交換会」を開き、登下校の様子をはじめ、地域の危険箇所や危険事例等について協議しました。多くの皆様が温かく見守ってくださっていることに、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。午後児童会による「感謝の会」では、お礼のお手紙をお渡ししたり、6年生の代表が心を込めて感謝の気持ちを伝えたりしました。当日ご参加できなかった見守り隊の皆様にも、心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。



冬休み「校長先生からの宿題」

2学期に、オリンピックで活躍された石川さん（ソフトボール）、パラリンピックで活躍された神保さん（車いすバスケットボール）から、いろいろなことを教えてもらいましたね。そのときに自分が考えたことや思ったことを、もう一度おうちの人にお話ししましょう。そして、いろいろな人（おうちの人やしんせきの人）からも、オリンピックやパラリンピックのことを聞いてみましょう。
インタビュー：「オリンピックやパラリンピックについて、知っていることや、心に残っていることを教えてください。」

家族をはじめいろいろな人とコミュニケーションをとってもらいたいと思い、今回もインタビューの課題を出しました。ご家族の皆様、本当に熱心に答えていただきありがとうございました。いろいろなことを知り、オリンピックやパラリンピックへの興味関心が高まったと同時に、話をしてくれた家族の言葉にとっても感動している子どもたちの様子が伝わってきました。インタビューの記録を一部紹介いたします。

答えてくれた人	オリンピックやパラリンピックについて、知っていることや、心に残っていること
お父さん お母さん *同世代？岩崎恭子さんの話がとても多かったです。 ♪「栄光の架け橋」などの音楽に関する話も出ていました。	<ul style="list-style-type: none"> ・石川多映子さんは近所なので同じ地区のみんなと一緒に応援した。メダルを取ったときは、みんなで喜んだ。 ・ロサンゼルスオリンピックで、大平町出身の砂岡さんが重量挙げで銅メダルを獲得して、東小を訪れて児童全員にメダルを触らせてくれたことを覚えている。 ・バルセロナオリンピックの金メダリスト（水泳）岩崎恭子さんの言葉「今まで生きてきた中で一番幸せです。」が印象に残っている。 ・アトランタオリンピックで視覚障害の陸上で7歳の時に視力をなくしても皆に支えられ金メダルを取り「目は見えなくても夢は見える」と言った選手。自分に負けず常に挑戦する姿に心を打たれた。 ・浅田真央選手が、失敗から立ち直りプレッシャーに負けず最高の演技で世界中を感動させてくれた。メダルや順位なんて関係なく心に残る素晴らしい演技だった。
おじいちゃん おばあちゃん *実際にすぐ近くで観戦したりテレビの前でみんなで応援したりしたことがよく分かりました。	<ul style="list-style-type: none"> ・1964年の東京オリンピックは、自分の家のテレビで見ることができて嬉しかった。 ・マラソンで3位に円谷選手が入り銅メダルを取ったのもとても感動した。家族みんなで夢中で応援した。 ・東京オリンピックのとき、小学校の教室にテレビがなかったので、図書室でみんなで見たのが思い出。 ・おじいさんは、大平中3年のとき、東京オリンピックの聖火リレーの随走者として走った。 ・札幌オリンピックで、おじいちゃんの友達がアイスホッケーに出ていた。 ・バレーボールで東洋の魔女がメダルを取った。その中のメンバーにおばあちゃんの高校の先輩がいたからうれしかった。
インタビューをして思ったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューをして楽しかったです。もっと知りたくなりました。 ・よい結果は、努力の積み重ねだなと思った。わたしもよい結果を出すために一生懸命がんばりたい。 ・おばあちゃんやおばさんそしてお母さんたちから聞くことができました。みんな時代が違い心に残っている選手も違っていました。でも、みんな感動して「泣いた・喜んだ・うれしかった」とにこにこ笑顔でその時を思い出しながら話をしてくれました。 ・叔父さんたちの話が熱すぎて少しびっくりしました。それくらいオリンピックというのは人を感動させるものなので、2020年がとても楽しみです。 ・おじいちゃんおばあちゃん二人とも前の東京オリンピックのことをよく覚えていて印象的だったんだなあと思いました。これからもオリンピックを通して世界中の人たちが仲良くしていけたらいいと思います。

栄光を讃える

○「小さな親切」運動栃木支部作文標語コンクール	作文の部	優良賞	福田裕紀	(6年)
○大岩藤処理区下水道ポスター展		最優秀賞	若菜悠真	(4年)
		優良賞	横田成珠	若菜健翔 (4年)
○小学生人権書道コンテスト		優良賞	白寄純礼	(6年)
○下野教育書道展		銀賞	小林千桜	(5年)
○JA共済県交通安全ポスターコンクール	JA 栃木中央会会長賞		若菜悠真	(4年)
○交通事故防止に関する作文コンクール		佳作	永瀬 駿	(6年)
○全日本空手道連盟系東会関東選手権大会	1年女子組手の部 3位		石川葉乃	(1年)
○宇都宮市フェンシング大会	フルール団体戦 準優勝		栃木舜也	(6年)
○エレクトーンフェスティバル 2018	小学校高学年部門特別賞		石渡彩名	(5年)



蔵井の石川美千代様よりマスクをたくさん寄贈していただきました。各学級に配付し、風邪の予防等に活用させていただいております。